



所 場 順一  
役 者 田 所  
任 任 深 所  
長 長 長 所  
岡垣町 岡垣町 岡垣町  
印刷 大和印刷所  
有 限 公 司  
電 話 (宗像) 2027番

# 年頭の辞

岡垣町長 深田順一

昭和四十五年の新春を迎えるに当り、町民各位の御多幸と御健康を心からお祈り致します。

私も町民各位の御支援により町長に就任致し、早くも五カ月を経過致しましたこの間町政の責任者として明るい町づくりと清潔な政治姿勢をモットーとして日夜奔走して参りましたが、各位の御協力により無事越年出来ました事を心から感謝して致します。



思うように事が進みませんでした。懸案の戸切小学校講堂の防音建築や上水道第二次拡張工事も着工し、河川の改修工事も実施され又遠賀病院道路の舗装工事も着工の運びとなり、懸案の事業が軌道に乗って来たかの感が致します。尚役場庁舎建設工事の為、事務所が分散し町民に多大の御迷惑をかけていますが、工事も順調に進み予定通り三月上旬には竣工し、中旬頃迄に引越しを完了することになり。役場庁舎は何と申ししても町行政の中心をなすもので、町民の方々にも密接な関係のある場所であり更に町民と執行部と通じ合う大切な窓口で

# 青少年の論文募集

輝やかしい次代は、現代の矛盾や混乱を一つ一つ改革していくという意欲に燃えながら、黙々と努力する若者の力によってこそ作られるものです。

青少年が進んで現在の問題点を考え、積極的に意見を発表する機会にするために原稿を、募集します。

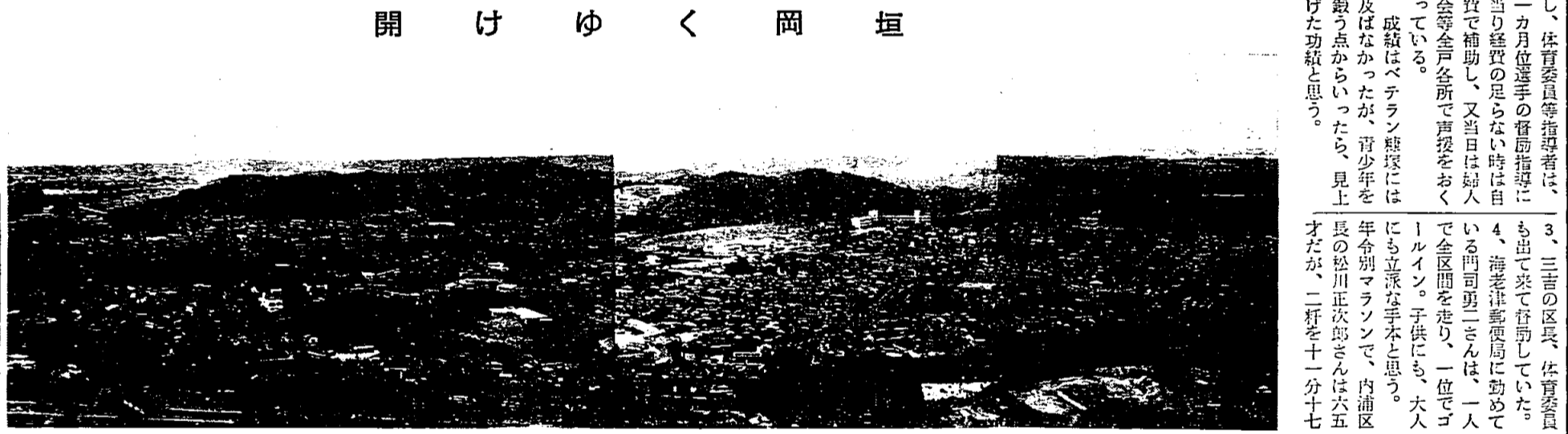
# 駅伝大会

## 年令別マラソン

十二月二十一日十時の時報と同時に、吉木農協前を

結果は  
優勝 糠塚 A 二位 糠塚 B 三位 吉木 四位  
野間 A  
区間賞  
一区 二村正英 (糠塚)  
二区 友納勝則 (岡中)  
三区 藤村公男 (三吉)  
四区 旗生信二 (糠塚)  
五区 大庭博 (三吉)

かむ大切な年に当りますので、その責任の重かつたなを痛感するのであります。今後町議会の方々とともに充分協議し、適切な施策を樹立し、この一年を乗り切り度いと存じますので、町民各位の絶大な御協力と御鞭撻をお願いして御挨拶と致します。



し、体育委員等指導者は、一月月位選手の指導指導に当り経費の足りない時は自費で補助し、又当日は婦人会等全戸各所で声援をおくっている。

成績はベテラン糠塚には及ばなかったが、青少年を鍛う点からいって、見上げた功績と思う。

三、三吉の区長、体育委員も出て来て奮闘していた。海老津郵便局に勤めていた門司勇二さんは、一人で全區間を走り、一位でゴールイン。子供にも、大人にも立派な手本と思う。

開 け ゆ く 岡 垣

砂で走られた。5、年令別マラソンを走って考えた。みんなと走っているから走りお世話だが、これが一人だったら、やはりきついなら途中で止めただろう。と世の中には、一人じやな母親が産後の前後であつたりするので、その児童の保育ができない場合、(5)病人の看護等。その児童の家庭に長期にわたる病人や、心身に障害のある人があるため、母親がいつもその養護にあたり、その児童



# 入所受付

## 岡垣町保育所

昭和四十五年度の岡垣町保育所の入所の受付を左記要領にて受付けます。

一、入所申込み先 岡垣町役場民生課  
二、入所人員 一〇〇名  
三、提出書類  
イ、保育所入所申請書 (用紙は役場民生課、東部出張所、保育所にあります)  
ロ、源泉徴収票  
四、受付期間 二月十日より三月五日まで  
但し右は四月一日より入所希望の方だけで、それ以後の入所希望者については、年中受付ていきます。

# おそろべき

## シンナーあそび

遠い出来事のように思われていたシンナー、ボンド遊びが、岡垣町にも没入し数名が捕縛されています。

シンナーはエナメルなど塗料をとく時使われ、ボンドはプラモデル等組立てる時使う接着剤に入っているものです。

# 毒 性

シンナーは脂肪をとく特性があり、人体には、大脳、中枢神経、副腎などをおかします。それで精神面には、意識障害、幻覚、無気力等の悪影響があり、身体的には呼吸循環系の抑制、心臓障害、発育障害、慢性中毒等障害が出ます。

出雲初詣観光団募集  
新春は出雲  
いで湯の山陰へ  
期 日 1月25~27日  
団 費 10,000円  
博多 21.52発(寝台車) 出雲 5.41 6.00  
一六社神門 6.20 一日御膳 8.00 出雲大社 9.30 7.30 一日御膳 9.00 下関 17.27  
皆生温泉(泊) 17.00 米子 9.30 10.04 9.00  
門司 17.35 博多 18.41  
50名で1切りします。  
海老津駅長 (TEL 2-0022)

九州の国鉄と

海老津駅六十年の歩み

岡垣町の昔には海老津駅を、ご利用、ご愛顧下さいまして職員一同厚く感謝してあります。私は岡垣町二十二代目の支店長を、おあつかりしております。昔は、この駅が明治四十二年十一月五日誕生いたしました。今年で六十才を迎えました。人生という遠征の道を、町当局、並びに町民各位の絶大な御支援によりまして、盛大なお祝いをいただき、厚く御礼申し上げます。

初夢

海老津駅を出、上昇気流に乗って山田峠、元松原、湯川、孔大寺の山々より、岡垣平野を眺めた時、自然に造られた雄大な庭園が余りにも美しいのにほほれられた時、すっと目がさめました。響灘は大きな池であり、三里の松は、如何なる技工にも勝って、自然の嵐に耐え抜いた力強い樹姿を見せ、田園は芝生、そして川と山を含めると自然に造られたすばらしい庭園です。私は自分でも池や樹木を組合せて庭を造りたいと常に思っているものですから、途方もないすばらしい夢を見てしまいました。

自衛官志願案内

(二等陸海空士) 受験資格 十八才以上二十才未満で日本国籍をもつ健康な男子。採用 毎月採用(入隊)身分 国家公務員(特別職)待遇 初任給二〇、五〇〇円。実質的には月平均三、八〇〇円(ボーナス四、五〇〇円分は別)進学 勤労しながら上級学

農地の登記は

農地改革などで農地や開拓地等の売渡しを受けた人は、もう一度あなたに売渡登記がされているか確認して下さい。昭和二十一年から四十一年までに農地等の買収、売渡しをしたもので現在なお登記がされていないものがあるため、これらの登記を完了に終らせるよう農業委員会等で処理を急いでおり、また、登記の滞りによる権利の行使に支障をきたすおそれがありますので、速に手続を完了されるようお知らせします。

故加藤健次氏 香典返し

町内小中学校に寄付 十一月二十三日死去された加藤健次先生は、町医、学校医として大正八年以来五十年間に亘り、児童生徒の保健衛生の増進に寄与されましたが、今岡垣町加藤五氏より町内小中学校に、香典返しとして多額の御寄附がありました。

岡垣風土記

▲太宰府官道(垂水峠) 垂水峠は、上代、太宰府官道(太宰府と京都をつなぐ大路、つまり、今でいう一級国道であった)が通ったところ、津口(今の宗像郡神湊)の駅家(うまや)から、ここを越えて内浦に下り、それから、浜山沿いに、新松原、十王堂元松原、黒山、糠塚、粟屋大城を経て、島門の駅家が、あったという島津のあたりに出た。しかし、今はここを通る北九州バイパス工事のために、官道もほとんどわからないままになっている。

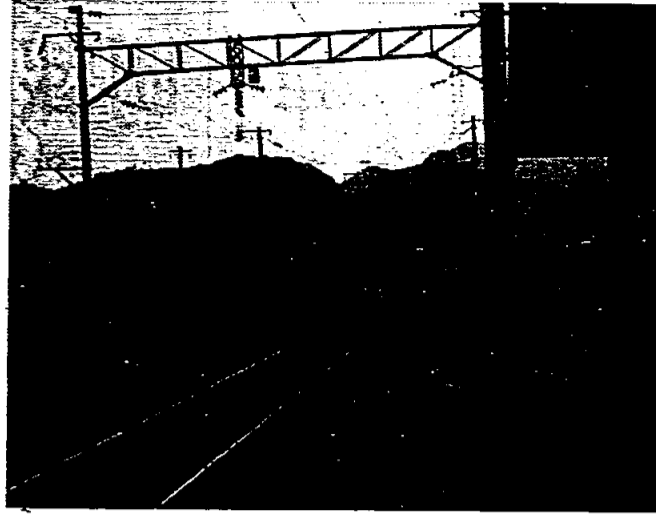
▲花立地蔵(垂水峠) 垂水峠の頂上には、花立地蔵がある。これは、里人が、香花を供えるから、花立というのでなく、国、郡、または、村の境を意味したことは、ある。即ち、花立のはなしは、もの端(はな、はし)つまり三河、尾張、その他、諸国境のことで、立、杖立、矢立、または、立石などと全くと、または、石を境に立てておくことである。また、地蔵を、端(はし)に祈ることは、一般の習俗で、たとえば、鈴鹿の間に、地蔵は、伊勢と近江との境であり、また、箱根の塞の河原の地蔵は、相模と駿河の境にある。

岡垣風土記の編集

岡垣町には三年前より、文化財顕彰会が発足し、岡垣の歴史等調べています。昭和四五年中に「岡垣町風土記」(仮称)を発行することにしました。岡垣の歴史、伝説、民話、年中行事、神社仏閣の由来地名の解説、事件など、何でも結構です。後世に伝えたい方がよいと思われるものがあつたら、原稿を出して下さい。原稿用紙は公民館に用意しております。締切りは昭和四五年一月末日です。出来るだけ写真も添付して下さい。

請求期限せまる 引揚者特別交付金

引揚者特別交付金請求については、岡垣町では三百三拾件の請求がありました。未だ二五〇程度の方が請求していません。請求期限は昭和四十五年三月末日迄となっておりますので、権利を失うことのないよう、速に手続を完了されるようお知らせします。



この区間は三十五キロで、時速二十七キロ(現在八十八(九十キロ)の列車は一時三十分もかかりました。今では想像もできないものですが、文明に触れた人た

ている場所は、上沼及び上高倉の一部であります。いずれも部落よりの凍結害によつて皆伐をせざるを得ないが、自然林の保護は岡垣全体の風致保全上重要な役割を担っています。

この方面の山が荒廃林か若令林でおおわれている事を今一度考えて下さい。岡垣で自然保安林が保たれ

た、頂上近く、宗像郡側の茂みの中に、昔の面影を僅かに留めて、かつては、太宰府の官人、または、辺境防備のために、遠く東国から派遣された防人(さきもり)或は、貢租米を輸送する役夫などが、往来したであろう。遠い平安の昔をしのぶ。

▲波津 一運賃部誌には、「この地、郡の極南にあり、古へは、初と書けり」とある。これについては、「地名の研究」には、はし(はし)は、(端)は(極)などと語源を全くとし、土地の端、または、境の義なることは、三河、尾張、その他、諸国境のことで、立、杖立、矢立、または、立石などと全くと、または、石を境に立てておくことである。



今、ここには、波津神社がある。(八幡、門司勇)